

# 【別府市総合教育会議参加報告書】

日 時：令和4年6月16日（木）

場 所：別府市立青山中学校

会 議：令和4年度第1回別府市総合教育会議

対応者：眞田 貴弘（主幹教諭） 甲斐 義一（教諭、ICT推進部部长）



別府市教育委員会から依頼があり、長野別府市長も参加する令和4年度第1回別府市教育総合会議にて、「ICT推進の取組」について実践報告をさせていただきました。当日は、専門家枠で参加していた（株）Doit 土井敏裕氏（元大分県教育委員会指導主事）から本校の取組について助言をいただきました。

## 【（株）Doit 土井敏裕氏の助言（概要）】

○附属小学校は大切なポイントを押さえている。

- ① 「推進に向けた校内組織を整えていること」
- ② 「スキルアップのためのミニ研修を組織で行う校内研修に位置づけていること」
- ③ 「教師や児童の困りの視点から活用を始めていること」
- ④ 「取組を進める上で、そもそもの話に立ち返ってから進めていること」

○ロイロノート（アプリ）は一斉授業のためのツールである。これからの目指す教育を考えた時は、違うアプリの活用も必要である。

○教師は、児童の主体が大切であると言っているが、教師自身は、児童に教えたがってしまう。これからは、伴奏者、助言者としての教師の役割が求められている。

○「授業改善」から「授業改革」へ。つまり「授業のフレーム」を転換していくことである。